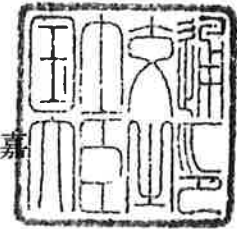


認 定 書

国住指第 3188 号
令和 2 年 2 月 21 日

吉野石膏株式会社
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 46 条第 4 項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FRM-0680
2. 認定をした構造方法等の名称
厚 9.5mm 軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板／めっき鉄丸くぎ NZ50／外周部@75mm、中通り@150mm／大壁造の入隅仕様／木造軸組耐力壁における構造方法
3. 認定をした構造方法等の内容
2.5 の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造方法の名称

厚 9.5mm 軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板／めっき鉄丸くぎ NZ50／外周部
@75mm、中通り@150mm／大壁造の入隅仕様／木造軸組耐力壁

2. 構造の概要

(1) 面材の概要

a) 面材の名称

軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板

b) 面材の構成及び組成

面材の断面図を図1に示す。また、その構成材及び組成を表1に示す。

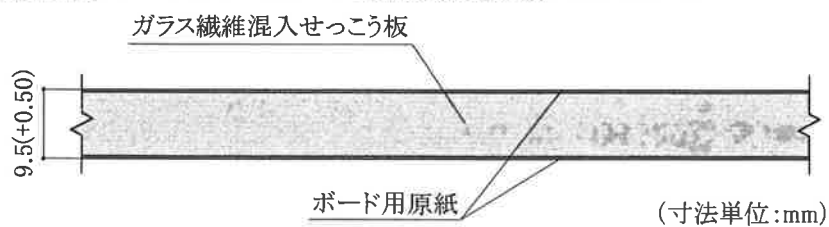


図1 面材の断面図

表1 構成材及び組成

<p>表裏面材： ボード用 原紙</p>	<p>組成などは社外秘とさせていただきます。</p>
<p>芯材： ガラス繊維 混入せっこう板</p>	<p>組成などは社外秘とさせていただきます。</p>

c) 寸法

	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)
寸法	9.5	900~1000	1820~3030
許容差	0~+0.5	±2.5	0~+5

d) 側面加工形状

図2に示すベベルエッジ又はスクエアエッジとする。

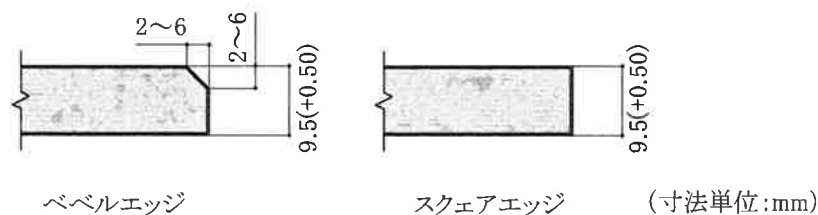


図2 側面加工形状断面図

e) 品質の基準

面材は、国土交通大臣の認定を取得した面材（認定番号：QM-0954-1）に対し、面材の厚さの範囲を制約している。

性能：（試験方法はJIS A 6901：2014による。）

含水率 (%)	曲げ破壊荷重 (N)		単位面積当たりの質量 (kg/m ²)
	長さ方向	幅方向	
3以下	500以上	200以上	6.84~8.36

外觀：軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せこう板の両面及び側面には、使用上有害な欠け、割れ、汚れ、きずなどがあってはならない。

(2) 軸組材の仕様概要

部 位		寸 法 等
柱、土台、胴差、桁、梁	断面寸法	見付け 105mm×見込み 105mm 以上
継手間柱	断面寸法	見付け 45mm×見込み 105mm 以上
間柱	断面寸法	見付け 27mm×見込み 105mm 以上
胴つなぎ	断面寸法	見付け 60mm×見込み 45mm 以上
受材	断面寸法	見付け 45mm 以下×見込み 40mm 以上
柱の間隔		900mm~2000mm
面材の継手となる継手間柱と柱の間隔		900mm~1000mm
間柱と柱又は間柱と継手間柱の間隔		450mm~ 500mm
横架材間の内法寸法	1枚張り	1990mm 以上 2970mm 以下
	縦継ぎ張り	2460mm 以上 2970mm 以下

(3) 接合具の仕様

規格名称：くぎ
規格番号：JIS A 5508:2009
種類：めっき鉄丸くぎ
呼び：NZ50

(4) その他の仕様（受材の接合具）

規格名称：くぎ
規格番号：JIS A 5508:2009
種類：鉄丸くぎ
呼び：N90

3. 耐力壁の適用範囲

- (1) 当該面材を使用した耐力壁の適用範囲は、建築基準法施行令第40条から第49条（ただし、第48条第2項は除く）に準拠した木造軸組とする。
- (2) 当該耐力壁は、外周壁の屋外側下地材、室内側下地材及び内部壁の下地材に用いるものとする。当該耐力壁を外周壁の屋外側下地材として用いる場合は、防水紙その他適切な防水措置を講じるものとする。
- (3) 建築基準法施行令第46条第4項の表1に定める軸組又は昭和56年建設省告示第1100号に定める軸組を併用する場合は、倍率の数値5を限度としてそれぞれの倍率の数値を加算できるものとする。

4. 耐力壁の施工仕様の概要

(1) 軸組材

- ①柱、横架材（土台、胴差、桁、梁）の断面寸法は見付け105mm×見込み105mm以上とする。
- ②間柱の断面寸法は見付け27mm×見込み105mm以上とする。
- ③面材の横方向の継手となる継手間柱の断面寸法は見付け45mm×見込み105mm以上とする。
- ④面材の縦方向の継手となる胴つなぎの断面寸法は見付け60mm×見込み45mm以上とする。
- ⑤入隅部の面材を留め付ける受材の断面寸法は見付け45mm以下×見込み40mm以上とする。
- ⑥柱の間隔は900mm以上2000mm以下とする。
- ⑦面材の継手となる継手間柱と柱の間隔は900mm以上1000mm以下とする。
- ⑧間柱と柱又は間柱と継手間柱の間隔は450mm以上500mm以下とする。
- ⑨横架材間の内法寸法について、縦継ぎ張りの場合は2460mm以上2970mm以下、1枚張りの場合は1990mm以上2970mm以下とする。

(2) 面材の割付

面材は軸組に直張りとし、張り方は横架材間に胴つなぎを設けて2枚の板で縦継ぎ張りとするか、または1枚の板で縦張りとする。ただし、2枚の板で縦継ぎ張りとする場合、下側の面材の長さは1820mmとし、上側の面材の最小長さは700mmとする。

(3) 面材の留め付け

- ①面材は、めっき鉄丸くぎ NZ50 を用いて、面材の外周部ではくぎ相互の間隔を 75mm (マーキングからのずれの許容差: $\pm 8\text{mm}$) 以下で柱、横架材、受材、継手間柱、胴つなぎに、面材の中通りの部分ではくぎ相互の間隔を 150mm (マーキングからのずれの許容差: $\pm 15\text{mm}$) 以下で間柱に留め付ける。ただし、面材端部に間隔の狭い箇所が集中するような極端な配置とならないようにする。
- ②くぎが有効に作用するように、面材の端部とくぎとの間隔 (へりあき距離) は、横架材及び胴つなぎでは 15mm (許容差: $\pm 3\text{mm}$)、柱、継手間柱および受材では 12mm (許容差: $\pm 2\text{mm}$) とする。
- ③面材の外周部及び中通りの部分におけるくぎ本数について、面材の長手方向及び短手方向の辺長 (H、L) からへりあき距離 (H_1+H_2 、 L_1+L_2) を減じた長さ ($H-(H_1+H_2)$ 、 $L-(L_1+L_2)$) を算出し、その長さを各部のくぎ間隔 (P、Q) で除する。
外周部のくぎ本数はその値の小数第一位を切り上げて 1 を加えた値とし、中通りの部分のくぎ本数はその値の小数第一位を切り上げて 1 を減じた値とする。
なお、図 3 に示す通り、面材四隅のくぎは長手・短手両方向のくぎ本数として数えることとするが、中通りの部分と外周部のくぎを結ぶ直線上のくぎは、中通りの部分のくぎ本数として数えないものとする。また、くぎ本数の一覧を表 2 に示す。
ここで、L は 900mm~1000mm のいずれかの値、H は耐力壁の施工仕様に応じた下側もしくは上側の面材の長さの値、 H_1 及び H_2 は 15mm、 L_1 及び L_2 は 12mm、P は 75mm、Q は 150mm とする。
- ④面材のかかり代は、柱は 45mm 以上、土台、梁、胴差および桁は 30mm 以上、継手間柱は 20mm 以上、受材は 32mm 以上、胴つなぎは 30mm 以上とする。
- ⑤くぎ留めは、面材に表示されたくぎ留めの位置に従って行い、表示のない位置は施工時にマーキング等した後にくぎ留めする。
- ⑥面材の継手部は縦方向および横方向とも突き付けとする。
- ⑦くぎは、面材表面に面一になるように留め付ける。

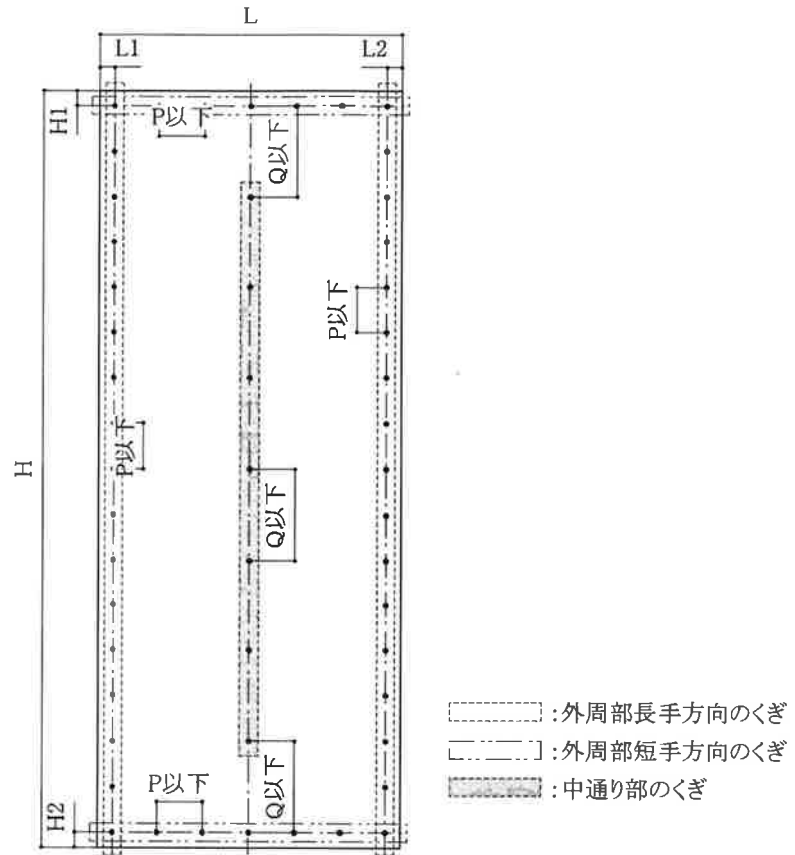


図3 各部のくぎ本数

表2 くぎ本数一覧

項目	仕様					
面材と軸組	種類	: めっき鉄丸くぎ NZ50				
	間隔	: 外周部間隔	75mm	以下		
		: 中通り間隔	150mm	以下		
		面材長辺からの縁端距離	柱・継手間柱位置	12mm		
		面材短辺からの縁端距離	胴つなぎ位置	15mm		
			横架材位置	15mm		
	本数	: 面材外周部 短手方向長さ	834mm	以上 849mm	以下 12本	
				849mm	以上 924mm	以下 13本
				924mm	以上 999mm	以下 14本
				999mm	以上 1000mm	以下 15本
			面材外周部 長手方向長さ			
			縦継ぎ張りの上側面材	700mm	以上 705mm	以下 10本
				705mm	以上 780mm	以下 11本
				780mm	以上 855mm	以下 12本
				855mm	以上 930mm	以下 13本
				930mm	以上 1005mm	以下 14本
			1005mm	以上 1080mm	以下 15本	
			1080mm	以上 1155mm	以下 16本	
			1155mm	以上 1210mm	以下 17本	
		縦継ぎ張りの下側面材	1820mm		25本	
		1枚張りの面材	2050mm	以上 2055mm	以下 28本	
			2055mm	以上 2130mm	以下 29本	
			2130mm	以上 2205mm	以下 30本	
			2205mm	以上 2280mm	以下 31本	
			2280mm	以上 2355mm	以下 32本	
			2355mm	以上 2430mm	以下 33本	
			2430mm	以上 2505mm	以下 34本	
			2505mm	以上 2580mm	以下 35本	
			2580mm	以上 2655mm	以下 36本	
			2655mm	以上 2730mm	以下 37本	
			2730mm	以上 2805mm	以下 38本	
			2805mm	以上 2880mm	以下 39本	
			2880mm	以上 2955mm	以下 40本	
		2955mm	以上 3030mm	以下 41本		
	面材中通り 長手方向長さ					
	縦継ぎ張りの上側面材	700mm	以上 780mm	以下 4本 または 5本		
		780mm	以上 930mm	以下 5本 または 6本		
		930mm	以上 1080mm	以下 6本 または 7本		
		1080mm	以上 1210mm	以下 7本 または 8本		
	縦継ぎ張りの下側面材	1820mm		11本 または 12本		
	1枚張りの面材	2050mm	以上 2130mm	以下 13本 または 14本		
		2130mm	以上 2280mm	以下 14本 または 15本		
		2280mm	以上 2430mm	以下 15本 または 16本		
		2430mm	以上 2580mm	以下 16本 または 17本		
		2580mm	以上 2730mm	以下 17本 または 18本		
		2730mm	以上 2880mm	以下 18本 または 19本		
		2880mm	以上 3030mm	以下 19本 または 20本		

(4) その他の施工仕様

入隅部では、受材を鉄丸くぎ N90 (JIS A 5508 : 2009) を用いてくぎ相互の間隔を 200mm 以下で柱に留め付ける。なお、受材と軸組材 (横架材, 胴つなぎ) との隙間は各受材の上下合計で 3mm 以下とする。

(5) 施工図

施工図を図 4~図 8 に示す。

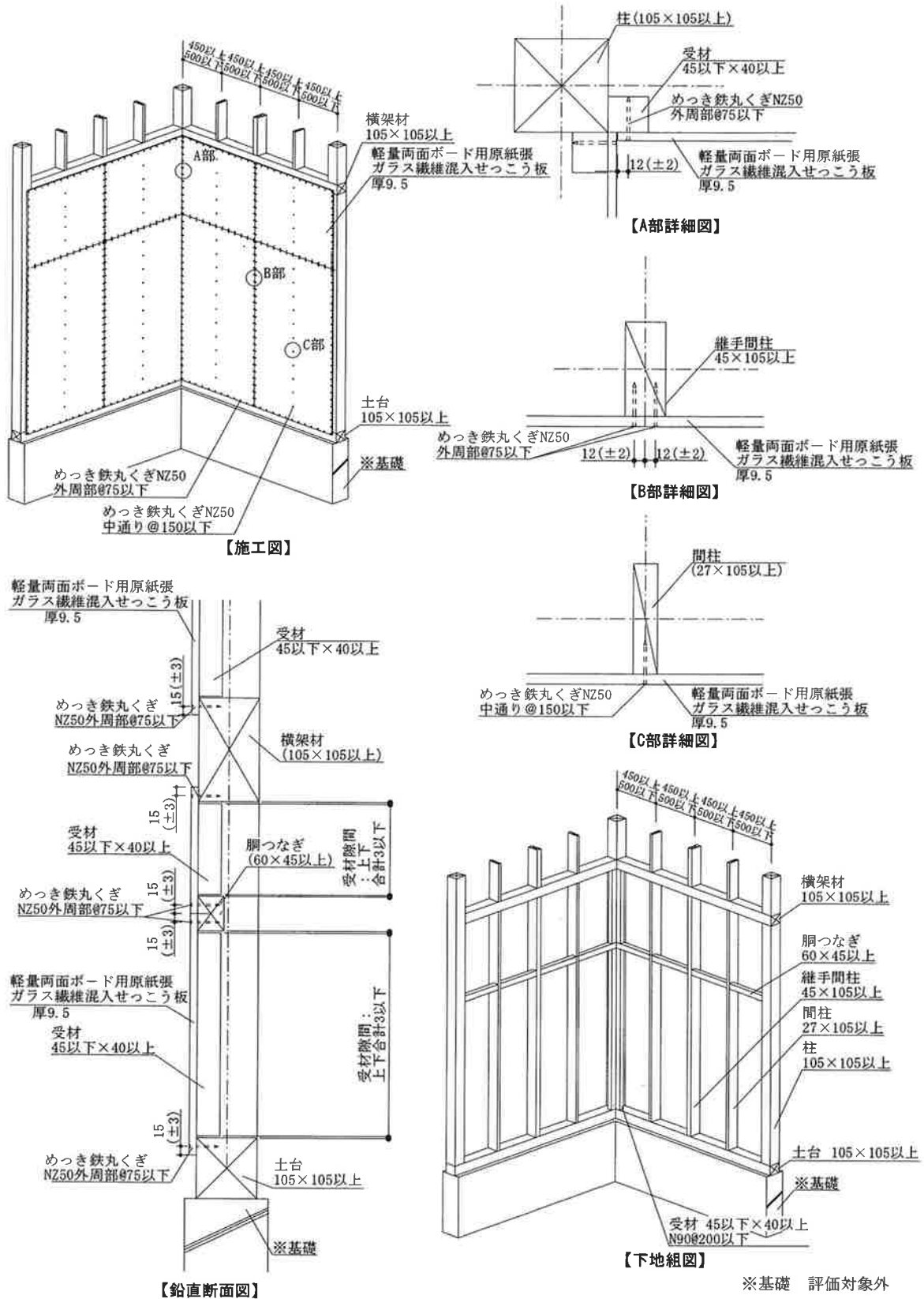


図4 施工詳細図：縦継ぎ張りの場合 (寸法単位：mm)

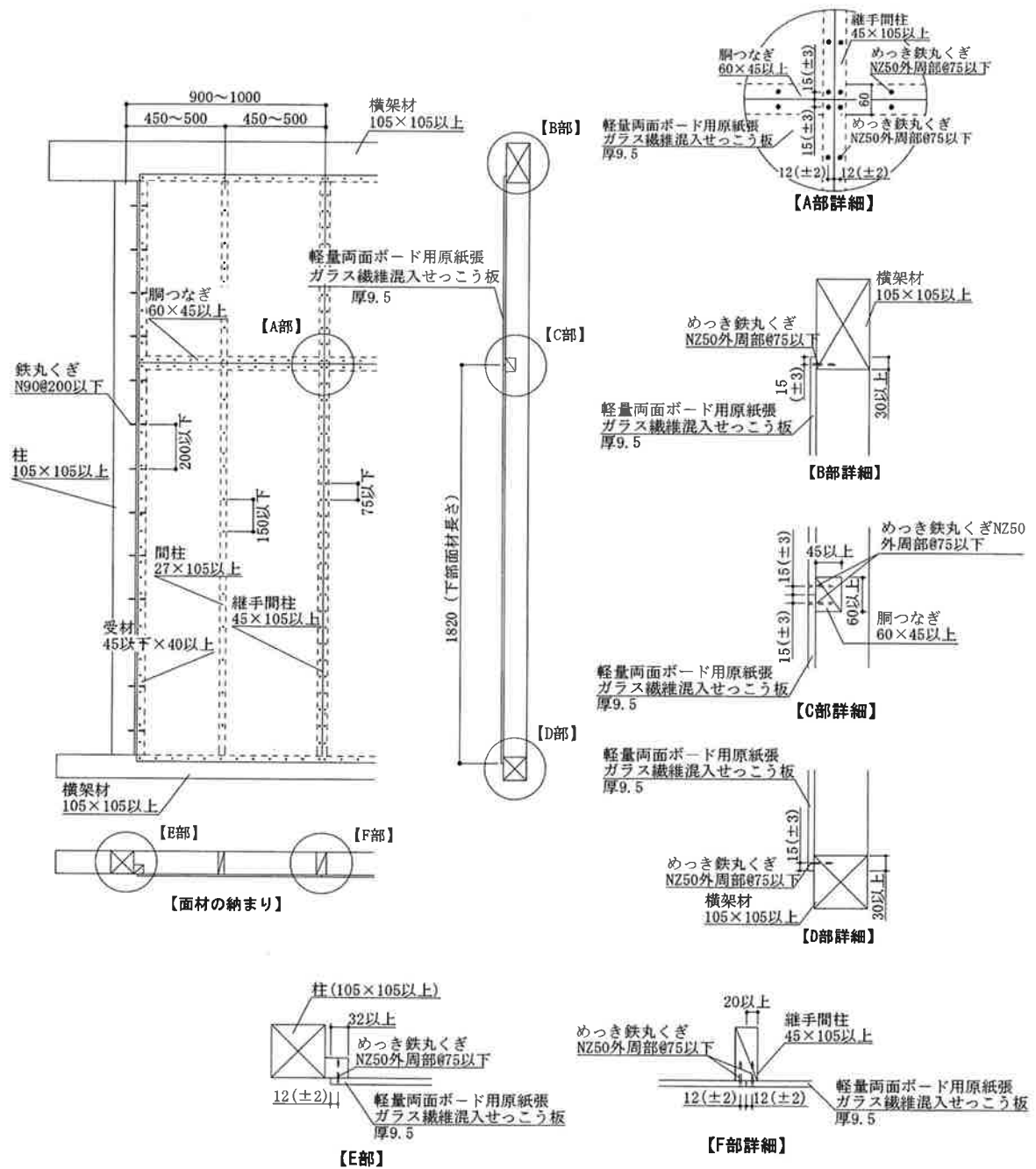


図5 施工図：縦継ぎ張りの場合 (寸法単位：mm)

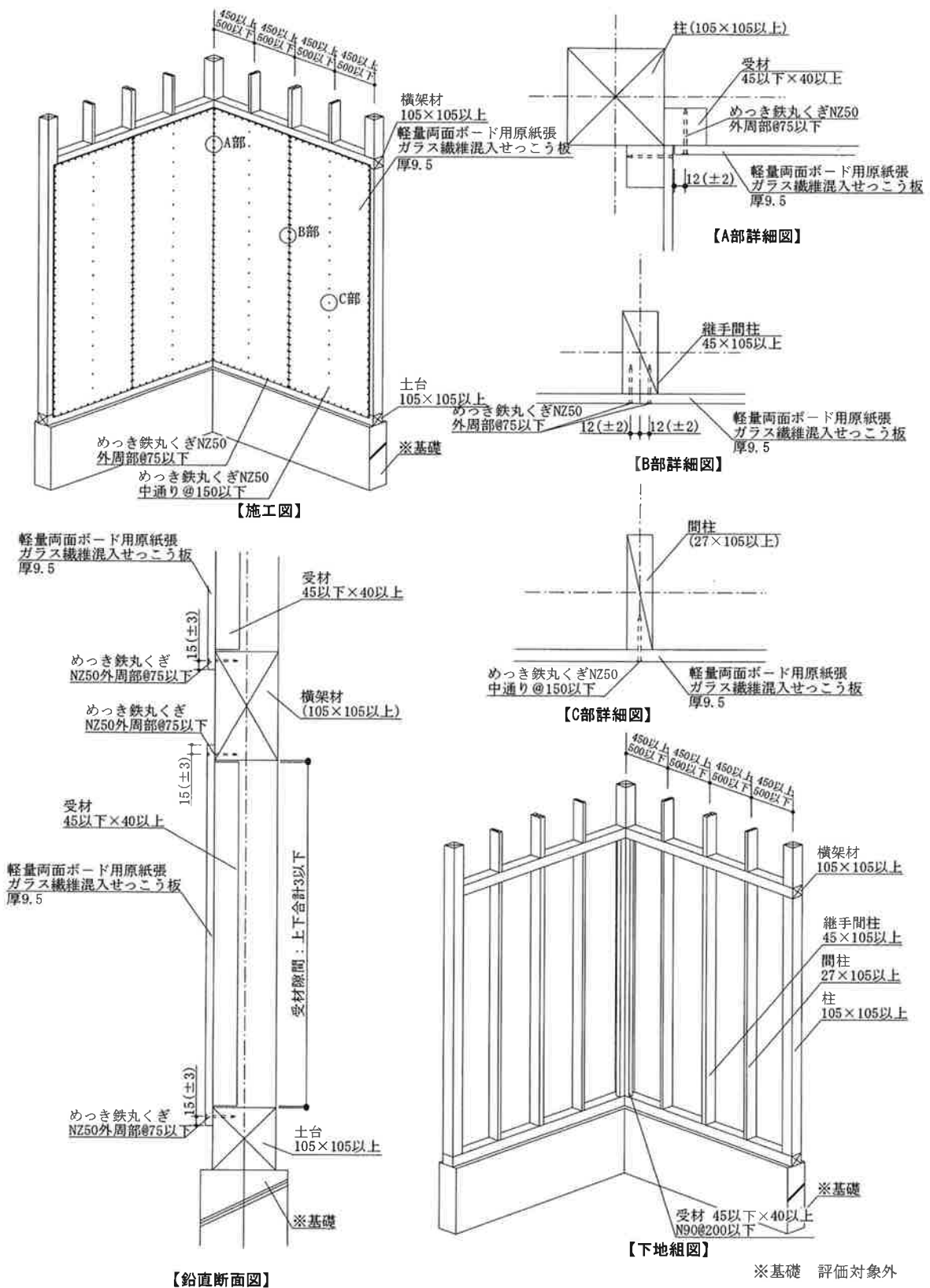


図6 施工詳細図：1枚張りの場合 (寸法単位：mm)

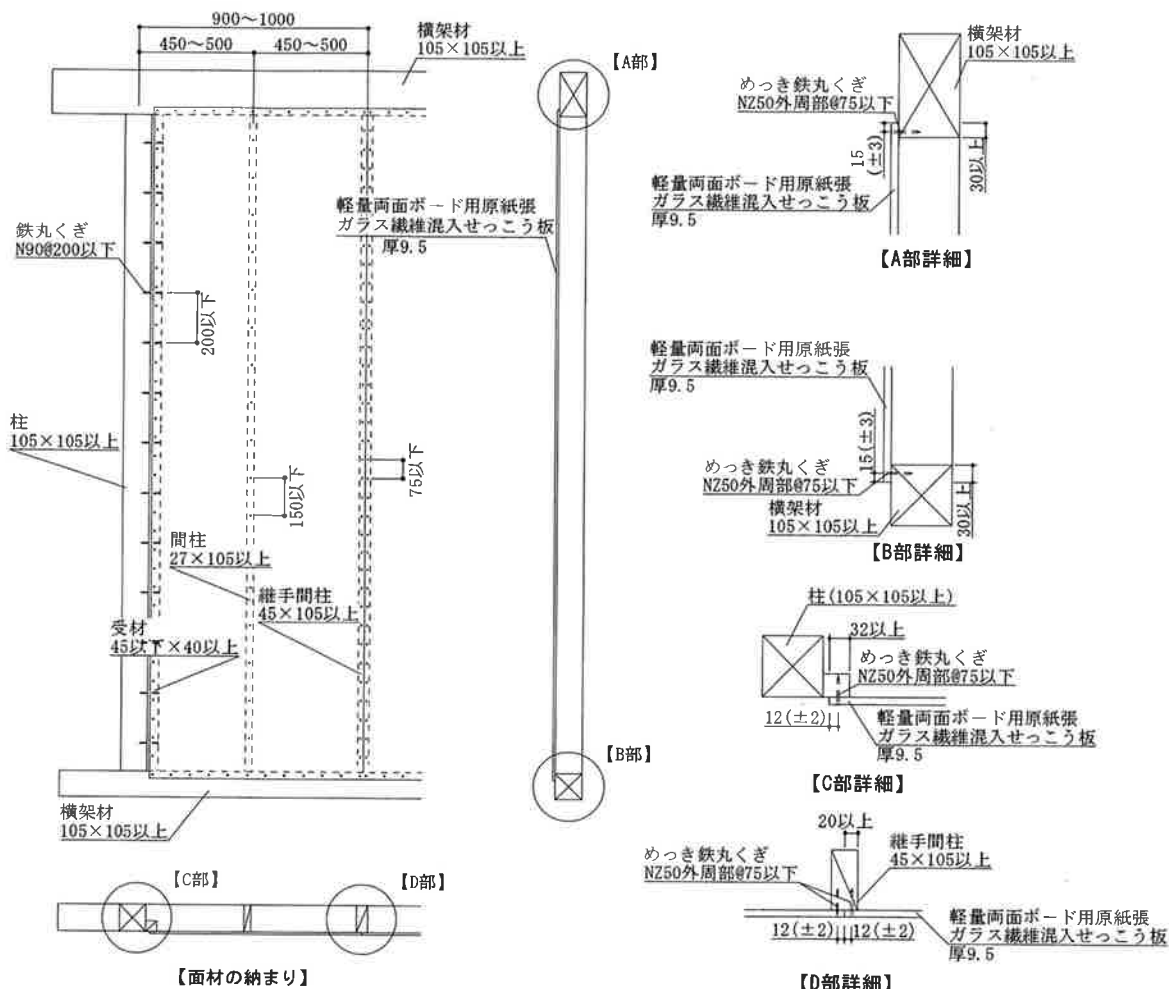


図7 施工図：1枚張りの場合 (寸法単位：mm)

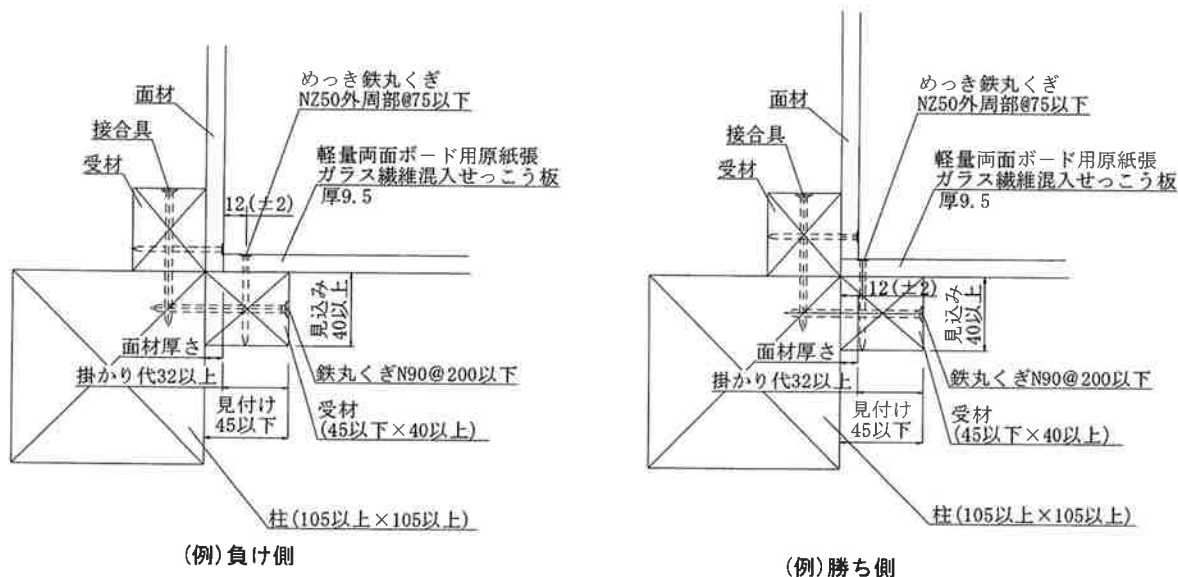


図8 施工図：入隅部 (寸法単位：mm)